

< 特別寄稿 >

正山征洋先生のご厚意で所蔵されている「ボタニカルアート」の一部を紹介していただく事になりました。大変貴重で興味深く、芸術性も高い作品に加え先生自ら解説されています。

ボタニカルアート

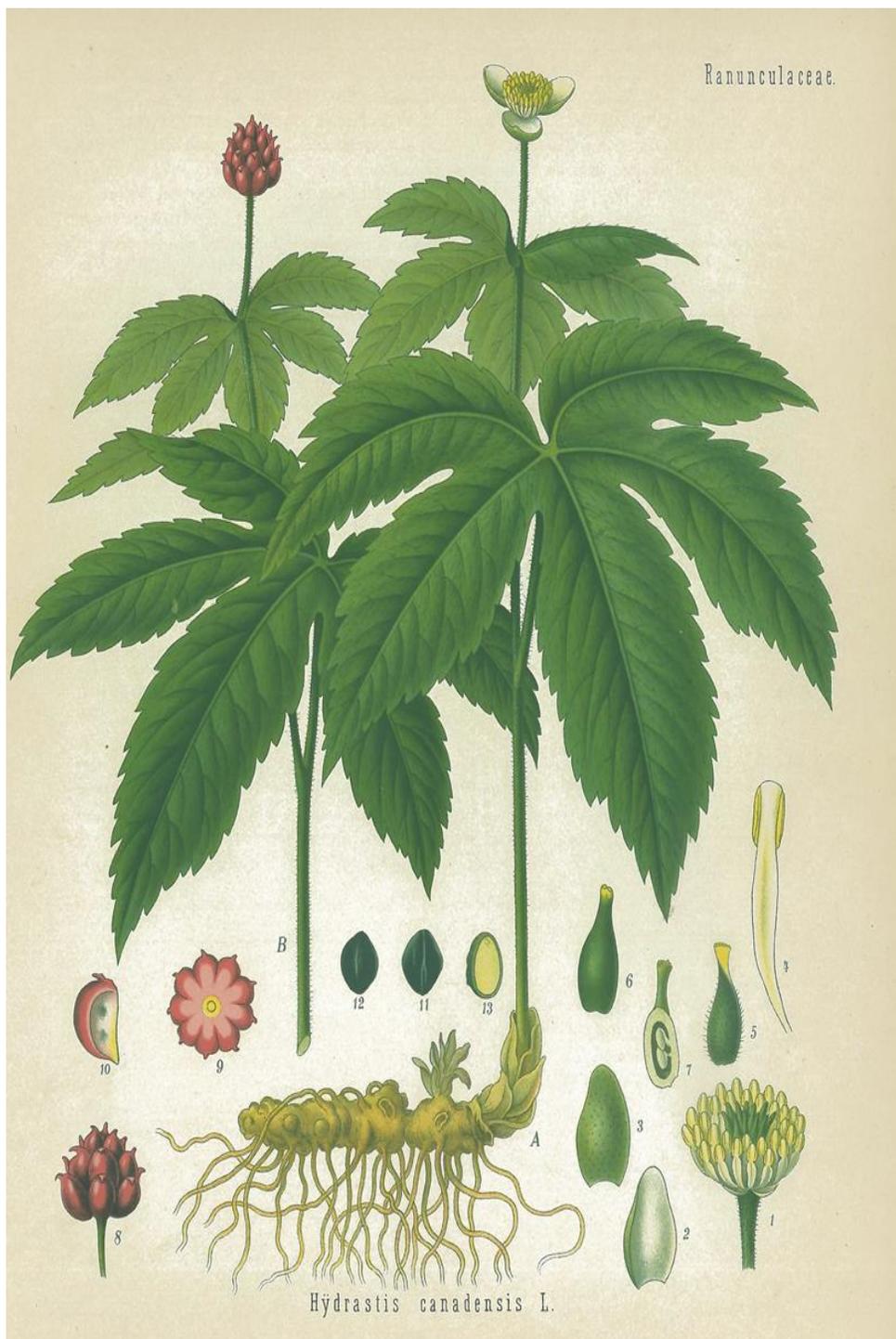
九州大学名誉教授・長崎国際大学名誉教授

正山征洋先生

第10回

ヒドラスチス根

キンポウゲ科に属し、学名の *Hydrastis canadensis* が示す様にカナダ原産の多年草です。根茎から一本の茎が伸びて特徴ある掌状葉が2枚出ます。



春、茎頂に白緑色の3弁花を開きます。秋には果実が赤く熟します。果実や葉が薬用人参と似ていることから薬用人参と間違っているケースもあります。

薬用部位は根茎で黄連によく似ています。日本に自生している黄連に近い種ですので、ベルベリンを含んでいる他、ヒドラスチニン、カナデイン等を含んでいます。これらの成分は極めて苦いことから苦味健胃薬とする他、止血にも用いられます。

また、ベルベリン等が鮮やかな黄色を示すことからアメリカインディアンは染料としても用いていました。

本画はカーラーによるもので、1800年代末の作品です。カーラーは多くの薬用植物の画を描いていますので、生薬の講義に供覧していたことを思い出します。